

JR京浜東北線をはじめ、宇都宮線、高崎線、湘南新宿

ライン、埼京線などが停車する東京の北の玄関口、赤羽駅。近年は、

安くておいしい飲食店が多いと、若者にも人気のまちだ。

駅前から高台へ歩いて約10分に位置するのが「ヌーヴェル赤羽台」だ。前身は、昭和30年代にスタートした約33

00戸の赤羽台団地。1999年(平成11)から建て替え事業に着手し、本年度中には約2700戸の新しい姿へと生まれ変わる。

4月、その中心地に「Hintmation(ヒントメーション)」と名づけられた拠点が誕生した。全面ガラス張りの室内にはカウンターが設けられ、パーテーションで仕切れる開放的な空間が広がる。ソファで寛いだり、シェアスペースとしても利用でき、スペシャリティコーヒー・クラフトビール、ランチなども提供。団地住民はもちろん、地域にも開かれた新

は、団地の豊かな環境をもつと使いこなしていただけるよう、日常的な活動を支援しつつ、活動の相談や地域情報の発信地として団地の暮らしを支えること。拠点に張りついてのコミュニティづくりは我々も初めてなので、まずは存在を知つていただき、居心地のよい空間を継続的に提供できるよう力を尽くしたいですね』

団地や地域の人々が気軽に立ち寄れるようにとサービスの検討を行うのは、URのグループ会社、日本総合住生活(J-S)だ。担当の大淵賢は「どんなサービスが居住者の方々に喜ばれ、団地の活性化に役立つかを検討するのが役割です。今まで、さまざまな団地でブルワリー・シェアキッチン、シェアラウンジなどを手がけ、団地内の居住者や地域の輪が広がるのを実感してきました。今回もそのノウハウを生かし、場を盛り上げていきたい」と意気込みを語る。



ガラス張りでオープンエアにもなる「Hintmation」は誰もが気軽に立ち寄れる場所。拠点で行われる様々な人と人との交流がゆるやかにつなぐ。

## ○ 団地の活動窓口としても機能

この拠点のもう一つの特徴が、東洋大学の参画だ。東洋大学は、5階建て住棟の赤羽台団地から高層住棟主体のヌーヴェル赤羽台への建て替えで生まれた土地に移転。それを機に、実社会との関わりが深い福祉社会デザイン学部は「団地がキャバパス」と称して、団地との連携を深めてきた。同学部教授の水村容子学部長が説明する。

「核家族で育ち、異なった世代とのコミュニケーションが少ない今の学生たちも、団地内で高齢者の方に昔の話を聞いたり、小さいお子さんたちも、団地内で高齢者の方の活躍に期待したい。

街に、ルネサンス

**UR都市機構**

東北の復興まちづくりに 全力で取り組んでいます  
[企画制作]新潮社

volume 135

# 変わる日本の暮らしと「まち」



阿部民子  
text by Tamiko Abe  
illustration by Shigeyuki Sakata

たなスペースとして早くも注目を集めている。

## ○ コミュニティを育む拠点に

「この拠点は、多機能型コミュニティ拠点として、当団地を管理するURのプロデュースで誕生しました。ヌーヴェル赤羽台は建て替え前から居住されている方や新たな入居者に加え、敷地内の保育園や介護施設、地域の小学校や幼稚園、大学など、多様な方々が住み、行き交う住宅地です。そうした環境での持続したコミュニティの在り方を探るため、URは東洋大学福祉社会デザイン学部、URコミュニケーション、日本総合住生活の4者で共同研究を進めてきました。その結果、多世代が日常的に

ミーティングの在り方を探るため、URは東洋大学福祉社会デザイン学部、URコミュニケーション、日本総合住生活の4者で共同研究を進めてきました。その結果、多世代が日常的に

ここにいらした方と直に触れあって、面白いこと、やりたいことを下さいあげ、イベントを主催したり地域情報などを発信。人と人とのマッチングやコーディネート、グループづくりのお手伝いもいたします。狙い

は、団地の豊かな環境をもつと使いこなしていただけるよう、日常的な活動を支援しつつ、活動の相談や地域情報の発信地として団地の暮らしを支えること。拠点に張りついてのコミュニティづくりは我々も初めてなので、まずは存在を知つていただき、居心地のよい空間を継続的に提供できるよう力を尽くしたいですね』

各々の専門性、ノウハウ、経験を生かして活動する各社スタッフを「最強メンバー」と称するURの石垣は「オープンのご案内に地域を回ったときも、「何かコラボしたい」「活動の相談機能ができるてあります」と抱負を語る。地域の人と人をつなぐ新たなまちのスポット

がこの拠点です。ヒントメーションという名前は、赤羽台での暮らしを楽しむヒントをもらったり、あげたり、一緒に考える場所にと、ヒントとインフォメーションをかけて命名しました」と話すのは、UR都市機構の石垣曜子だ。

コンセプトは、「ゆるやかに人と人がつながる暮らし」。都心の賃貸という性質から、ちょっと挨拶できるとか、顔見知りになるなどのゆるやかなつながりこそが今後のコミュニティ形成に必要であり、何かのとき助け合えるベースになるので

は、という思いが込められている。

拠点の大きな特徴が、ヒントメーションにいる愛称「ヒントさん」の存在だ。その役割を、担当するURのグループ会社、URコミュニケーションの山田智之が説明する。

「ここにいらした方と直に触れあって、面白いこと、やりたいことを下さいあげ、イベントを主催したり地域情報などを発信。人と人とのマッチングやコーディネート、グループづくりのお手伝いもいたします。狙い

は、団地の豊かな環境をもつと使いこなしていただけるよう、日常的な活動を支援しつつ、活動の相談や地域情報の発信地として団地の暮らしを支えること。拠点に張りついてのコミュニティづくりは我々も初めてなので、まずは存在を知つていただき、居心地のよい空間を継続的に提供できるよう力を尽くしたいですね』